

八王子野菜で大学生の健康を取り戻す

八王子にある江戸東京野菜を利用して

杏林大学総合政策学部 木暮ゼミナール A チーム

三村泰成 田渕青大 堀込真歩 松浦実希

指導教員 木暮健太郎

1. はじめに

私たち大学生は、野菜の摂取量が不足しているのではないだろうか。そこで、大学生 100 人に野菜についてのアンケートを独自に実施した。1 つ目の質問項目は、「野菜の好き嫌い」についてである。結果は 76% が「好き」と回答した。調査対象となった大学生の 8 割近く人が野菜を好んでいるということがわかった。

2 つ目の質問項目は、「毎日、野菜を摂取しているか」についてである。結果は 51% の人が毎日野菜を摂取していることがわかった。野菜好きの人が 76% いるのに対して、毎日摂取している人は 51% であったことから、若い人たちの野菜摂取不足という現状が伺える。

野菜不足には、どのような症状を引き起こすだろうか。イライラ、貧血、便秘、肌荒れなどがあり、また生活習慣病の原因にもなっている。厚生労働省の国民健康・栄養調査（平成 25 年）によると 1 日当たり平均摂取量は 283.1g で、目標の 81% 程度となっている。これは深刻な問題である。

私たちは、こうした若者の野菜不足に対する解決策として、八王子で生産される「江戸東京野菜」に着目した。江戸東京野菜とは、江戸の時代から現在まで続く歴史ある野菜でありながら、市場にほとんど出回っていない希少性の高い野菜である。こうしたブランド力を秘めた野菜を大学生に広めることは、野菜不足の解消とともに、八王子で生産される江戸東京野菜の認知度を高めることにはなるのではないだろうか。

野菜の1日摂取推奨量は 350g以上



出典

(<http://www.maff.go.jp/kanto/press/seisan/engei/jyukyu/2008kasyu2.html>)

2. 提案内容

まず、八王子で生産される江戸東京野菜を販売する場所として、八王子の「空き家」、「空き店舗」を利用しようと考えている。

まず、私たちが考える八王子野菜の販売方法は、①「空き家をマルシェにし、そこで八王子野菜を販売する」、②「空き店舗を利用し、調理し提供する」ということである。

現在の大学生の食生活は、ファーストフード店やファミリーレストラン、コンビニエンスストアの増加により、外食に偏りつつある。実際にコンビニがあることによって助かっている面もあるが、コンビニで売られている野菜は衛生面の関係で何

度も洗われているため、ビタミンなどの栄養素が減少しているともいわれる。また、野菜の価格は気候条件などにより、時には、肉や魚と同程度の値段まで高騰することもある。

大学生の中には一人暮らしの学生が存在し、消費できないという理由から野菜を購入することを躊躇している人もいる。そこで新鮮な野菜を販売、調理し提供するために、空き家をマルシェにし、また空き店舗を食事処などにするという提案を考えている。野菜の販売方法も、一回で調理できるサイズにカットして小売で販売するなどの工夫ができれば購入者も増えるのではないかと考える。

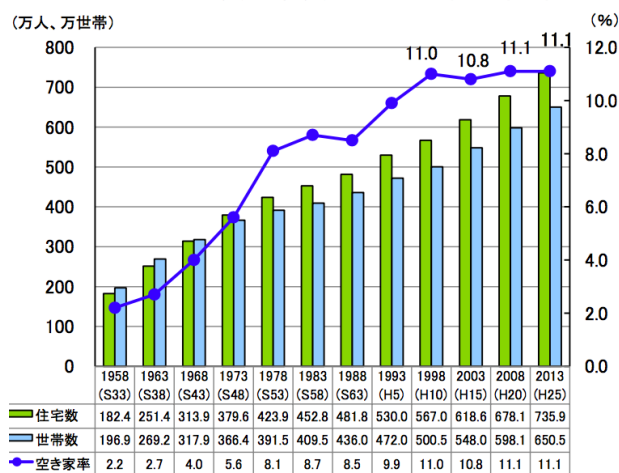
私たちが野菜を販売するにあたり、なぜ空き家、空き店舗に着目したかということ、近年八王子市内で空き家の数が増加傾向にあるからである。平成25年時点で八王子市内には650万世帯分もの空き家が存在する²。

いう条件があるのでこの制度を利用することもできる。この制度は昨年から施行され現在2戸分のみ実施されている。1回で多くの空き家を改装すると莫大なお金がかかるため、何店舗か経営していく中で売り上げが生まれ、売り上げも活用しながら徐々に改装する空き家を増やしていけば良いと考える。

空き家、空き店舗を改装するのも単純に専門の人がやるのではなく、八王子の建設系を学んでいる大学生に協力してもらおう。一緒に設計や建築作業を行なってもらうことで大学生の勉強にもなり、大学生目線で設計できるので気軽に大学生が立ち寄れるのではないだろうか。

また、「空き家をマルシェにし、そこで八王子野菜を販売する」だけではなく、空き家を改装し、八王子野菜を使った料理教室を開くことも可能かもしれない。

住宅ストック数、世帯数、空き家率の推移(東京都)



資料)平成25年住宅・土地統計調査/総務省

出典

(http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/juutaku_kcs/pdf/h27_05/shiryo_27_05_08.pdf)

八王子市では空き家の利活用等を促進するため、空き家の所有者が行う改修工事に要する費用の一部を補助する「八王子市空き家利活用促進整備補助金」という制度を設けている。補助額は対象工事費の半額、上限100万円までである。対象工事が認められるものとして地域活性化施設に改装と

3. おわりに

少子高齢化により、日本の各地で「空き家」や「空き店舗」の問題が浮上してきた。60万人近い人口を抱える八王子市においても、やがて重要な課題となってくるだろう。

野菜不足という問題を抱える大学生が、自らのアイデアで江戸野菜を広め、さらに空き家や空き店舗の活用に貢献することができれば、全国に広まるようなモデルとなり得るのではないかと考えている。

参考資料

<https://野菜不足.jp/daigakuseihitorigurashi-33>

<https://野菜不足.jp/problem-173>

http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/juutaku_kcs/pdf/h27_05/shiryo_27_05_08.pdf